



2017年度平和カンパのご報告

パレスチナ・ガザ地区 ナワール児童館の活動

特定非営利活動法人

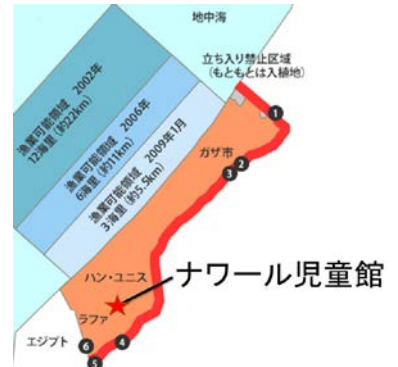
パレスチナ子どものキャンペーン

ガザ地区の現状

東京 23 区の 3 分の 2 ほどの土地に約 200 万人の人が暮らしています。2008～2014 年の 6 年間で 3 回ものイスラエルによる大規模軍事攻撃を受けました。復興が遅れており、5 万人以上が今も仮住まいをしています。

パレスチナ内部での政治的な分裂と和解の停滞、米国から国連への拠出金の大幅削減に代表されるような国際的な支援の減少や現地公務員への給与の遅配、10 年以上続く人や物資の出入りに対する極端な制限、都市インフラや病院までも機能をストップするような電力不足（1 日 4 時間程度）、44%に上る高い失業率（若者は 62%）など、事態はこれまでに悪化し、民衆の先行きへの不安が噴出しています。仕事もなく、ガザから出られない人々が、イスラエルとの境界付近（地図の赤い部分）にデモ行進で押し寄せ、イスラエル軍と衝突し、多くの負傷者が出ています。情勢の不安定化を受けて当会の駐在員もガザに入ることを中止せざるを得ない状態が続いています。

政治経済の悪化が加速し、社会全体が混乱している中で、貧困世帯のさらなる困窮、家族関係の悪化、家庭内暴力や児童労働、心理的な悪化、学力低下など、母親や子どもたちにも様々な影を落としており、支援の重要性が高まっています。



子どもと母親の居場所・ナワール児童館での活動

ナワール児童館は、ガザ南部の貧困地域において、子どもや母親たちが安心できる居場所です。子ども参加、地域密着、リーダーシップの育成などの特色を発揮した活動を 2017 年も続けました。子どもの心理的な安定、学力の向上、自信の回復、地域とのつながりの強化を進めています。

- 週 5 日、午前と午後の 2 交代で、300 人の小学生が来館
- レクリエーション、工作、音楽、演劇、伝統舞踊、物語作り、図書館活動、コンピュータ、遠足、季節のイベント、スポーツ、補習授業、絵画、映画鑑賞、子ども議会など、遊び・学習・文化活動の機会を提供。
- 図書館活動では読書を基にしたイラストづくりや創作文などもおこないました。
- 活動を通して出来上がった作品の展示会をひらき、家族や地域の人に見てもらう機会を作りました。
- 公立小学校との連携や教員研修も継続中。理科の補習授業に実験を取り入れたり、新しい教材を導入したり、子どもたちが生きた知識を学ぶ工夫を取り入れました。
- 東日本大震災の被災者への連帯を表す凧揚げ（国連主催）が実施された際にはナワール児童館の子どもたちも参加し、たくさんの凧を揚げて被災者へのエールを送りました。

母親たちも週 1 日程度来館し、ワークショップに参加しています。母親たちが関心を持っている内容を話し合ったり、母親同士の交流やストレス発散ができるセルフケアの場を作っています。特に困難に直面している母親には個別の相談にも応じ、日常生活の中での不安を払拭しています。

ワークショップや相談内容：

子どもの行動についての理解、家族内でのコミュニケーションや女性の権利保護、自分の感情や夢を家族に話す練習、近隣住民との良好な関係の構築、暴力や家族の課題への対処法、母親の心理状態の改善、自分への肯定的な感情の醸成、補助教材の作り方、メディアリテラシーなど

ご支援に感謝いたします

パルシステム東京からいただいた平和カンパは、画材、教育玩具、楽器、書籍、学習教材、スポーツ用品、演劇の道具や衣装、工作などのワークショップ材料、おやつ、母親ワークショップの講師や専門家への謝金、遠足費用、児童館の水光熱費、通信費、地域活動の交通費、現地スタッフの給与などに活用させていただきました。ご支援に心から感謝申し上げます。将来パレスチナの社会を担う子どもたちの可能性を育み、厳しさが増す状況下で子育てに奮闘する母親たちの拠り所となっているナワール児童館を継続的に支えて頂きますようお願いいたします。

